

長野中央病院

だより

しなののま



■発行人／山本 博昭 ■編集／長野中央病院広報委員会

特集

長野中央病院 消化器内科のオリジナリティ

患者さんのすぐ近くで、
最先端の医療を提供

肝臓の専門医からのメッセージ

より複雑化する現場で、
より適切な医療を選択

NEWS & INFORMATION

わたしのまちのお医者さん

- 医療法人 宮沢医院
- 医療法人 啓成会 岡田内科

長野中央病院 消化器内科のオリジナリティ

患者さんのすぐ近くで、最先端の医療を提供

患者さん視点を大切に、一貫性ある医療をめざす

すりと伸びた長身でエネルギッシュな印象の小島医師。消化器内科の精鋭チームを率いるリーダーです。消化器内科の特徴として、まず、一般外来が充実しているということを挙げてくれました。

「日常生活でちょっとした腹痛とか吐き気とか、そういう悩みで直接訪れる患者さんを数多く診ています。腹痛の原因が必ずしも消化器ではないとしても、一人の医師として患者さんに向き合う姿勢。これは、当たり前のように、多くの場合、患者さんは近くの開業医を訪れ、そこから紹介されるスタイルで専門医のいる病院を訪れます。消化器疾患のある患者さんに絞ってから治療行為をすれば、病院にとっては無駄がなく効率的であることは確かです。しかし、このような医療者視点だけでなく「患者さん視点も考えないといけない」と小島医師は語気を強めます。

「非効率かもしれませんが、やはり、お腹が痛いというところから気軽に来院していただきたいんです。大きな病気が隠れている可能性もありますし、入口から一貫性を持って医療行為をできるのがうちの消化器内科の特徴だと思っています」。

今日の最先端医療を学び、明日のために自己研鑽

近年、医療技術の革新はめざましく、目を見張るものがあります。世界中の大学や病院では、つねにレベルの高い競争をしながら、技術が磨かれていきます。このため最先端と呼べる医療施設はひとつに特定できず、その年によって変化しているそうです。それぞれの医療分野で「いまが旬」の大学、病院、研究施設。そういう勢いのある医療機関で医師が学べば、本物の最先端医療が身につくはずと。

長野中央病院では、5年以上のキャリアを持つ医師が「医者としてもう一步伸びたい」というとき、日本だけではなく海外の病院や施設に留学できる制度があります。その研修費用は、当事が全額負担します。

「地域や出身大学の制約がなく、本物の最先端技術を自由に選んで研修医として学ぶことができます。また研修先の先生は、熱心に勉強したり、つねに自己研鑽したり、いつも新しいアイデアを考えています。そういう先生から、研修医はいい刺激を受け触発されて、ふるさと長野中央病院に帰ってきます。「今後、20年、30年と医師を続けていくわけですから、この自己研鑽しつづける姿勢こそ、研修の本当の目標だと考えています」。

長野中央病院は、患者視点と最先端医療の両立をめざしています。そして、それを理想に終わらせず、具体的に実現するための実践的なシステムを持っているのです。

小島医師は「『腕は一流だけど冷たい主治医』にはなりたくない」と言葉を続けます。「患者さんは病気以外にも様々な問題を抱えています。その思いに応えられるようにチームとして、今後もがんばっていききたいですね」。静かに力強く、かつ熱く語ってくれました。

消化器内視鏡センター長
消化器内科部長
小島英吾

消化器内科とひと口に言っても、消化管、胆道、膵臓、肝臓と4つの専門分野の全てを長野中央病院では担当しています。消化管とは、口から食道、胃、腸、肛門までの連続する1本の管のこと。胃の痛み、胸やけ、便秘など、患者さんの自覚症状が出やすい臓器です。それに比較して、胆道や膵臓、肝臓は、それぞれ大切な役割を持っていますが、病気になってから初めてその機能を知る患者さんが多いようです。

長野中央病院の消化器内科は、外来の患者さんを数多く診察しており、また一步進んだ最先端医療を提供することで知られています。そこで今回は、消化器内科3名の先生方、それぞれの立場からのメッセージを紹介します。

診断から治療へ、可能性がどんどん広がる内視鏡

消化器内科の中で主に消化管と膵臓・胆嚢・胆管を担当している田代医師に、まず日頃の心構えから話をさせていただきました。

「先端的な医療を提供するのと同時に、それを誰にでも受けてもらえるように、また専門だけ診て終わりではなく、他の合併疾患も含め、体全体をよくして退院していただくことを常に心がけて日常診療に努めています」。

先端的な医療としては、まず内視鏡による胃がんの手術が上げられます。早期がんの治療では、よりダメージの少ない低侵襲の内視鏡治療が注目されるようになってきました。また口から入れる「胃カメラ」は十二指腸まで、肛門から入れる「大腸カメラ」は大腸まで、どちらからも見えない小腸の病気を観察したり治療するために、長野中央病院では、服用型のカプセル内視鏡と「バルン小腸内視鏡」を用いています。さらに膵臓をより精密に見るために、内視鏡の先に超音波装置がついている機械で、観察をしています。



内視鏡装置

テクノロジーの革新とともに、患者さんとともに

近年、医療機器の技術革新によって、内視鏡治療は進化し続けています。特にESD^{※1}という技術は、内視鏡の先から高周波ナイフ^{※2}を出し直視下にがんを残さないよう周囲の粘膜ごと切除する方法。当院では、15年前にいち早くこのESD技術を導入しました。一定の条件を満たす早期胃がんは、大きさにかかわらず内視鏡治療で切除できるようになりました。胃がんを内視鏡で治療できるようになった要因は、①早期がんを診断できる機械の発達。②内視鏡により切除する道具と技術の発達。①の機械の発達で最も大切なのが内視鏡の拡大機能や特殊光です。

「胃がんの患者さんは胃炎を患っている場合が多いのです。炎症で胃壁が盛り上がり、小さなお腹が見えにくい。そこで拡大内視鏡を使うことで、それが、胃がんか、胃炎か、さらに良性か悪性かがおおよそわかるようになり、無駄な生検が必要なくなり、逆に見落としを少なくすることができるようになっています。より早期の段階でがんを発見できれば、その時点では表面だけの腫瘍ですから、内視鏡での切除治療も可能になります。

長野中央病院の消化器内科では、先端的な医療を常に導入するよう努めています。田代医師は、ヨーロッパの消化器病の学会において、早期胃がんの内視鏡治療に関して発表した経験があります。まさに地域医療のなかでの先端的な取り組みの事例がここにあります。

※1 ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術

※2 高周波ナイフ：高周波電流により、組織を切開する器具



消化器内科医師 田代興一

肝臓の専門医からのメッセージ

より複雑化する現場で、 より適切な医療を選択

沈黙の臓器とも呼ばれる肝臓は、人間の身体にとって重要な役割を担っています。肝硬変や肝臓がんなど、生命に関わる疾患も多いのですが、残念ながら、肝臓の専門医となると県内でも人数が少ないのが現状です。松村医師は、そんな中の一人。一般にあまり知られていない「肝臓」のこと、そして最新の動向について紹介します。

重要な役割を担っている肝臓

肝臓は人体最大の臓器であり、代謝、排出、解毒をはじめ様々な機能を有しています。多くの肝疾患では腹水や黄疸などの肝不全症状が出現するまでには時間がかかることが多く、症状と治療適応の時期が乖離していることが少なくありません。肝不全症状が出現する頃には重篤な肝硬変になってしまっていることもしばしばあるそうです。

「より早い無症状の時期からの介入が重要です。患者さんとも長いお付き合いになることが多く、実際当院にもう20年以上も通院されている患者さんもおられます。患者さんとより長くお付き合いできるように、常に「適切な治療を適切な時期に提供すること」を心がけて診療を行っております」と松村医師は語ります。

最先端医療を安心して受けていただくために

長野 中央病院は、信州大学を拠点病院とした、長野県の肝疾患に関するネットワークの専門医療機関の登録を受けています。最新の治療をよりよいタイミングで提供できるように、信州大学の研究にも参加しています。現在、必要な患者さんには、C型肝炎に対するインターフェロン治療効果予測のためのIL28B遺伝子変異^{※3}や、新薬であるプロテアーゼ阻害薬やNS5A阻害薬の耐性変異^{※4}を調べていただくことが可能で、新薬による治療も安心して受けていただける環境が整っています。

また、ラジオ波焼灼療法^{※5}やカテーテル治療^{※6}を中心とした肝臓がんに対する治療にも力を入れています。ラジオ波焼灼療法では、超音波造影剤や、CT・MRI・超音波のボリュームデータから探触子と同一方向のMPR像（バーチャル画像）をリアルタイムに描出する機能があるreal-time Virtual Sonography^{※7}を積極的に使用して、高い安全性と治療の質を追求しています。

カテーテル治療では、ハイブリッドオペ室が開設され画像の性能が飛躍的に改善し、加えて信州大学放射線科の先生方のご協力もいただいて、より質の高い治療を提供できるようになっています。

- ※3 IL28B遺伝子変異：患者さんの「IL28B」という遺伝子の型を調べることで、事前に治療効果を予想することができる。
- ※4 耐性変異：プロテアーゼ阻害薬やNS5A阻害薬など新薬が効かないウイルスのタイプ
- ※5 ラジオ波焼灼療法：皮膚の外側から針状の電極を刺し、熱でがん細胞を焼いてしまう治療方法。
- ※6 カテーテル治療：がん細胞に栄養を送る動脈に抗がん剤を投与し、血管を詰まらせてしまう治療方法。
- ※7 real-time Virtual Sonography：針先が肝臓のどの位置にあるか、リアルタイムにMRIなどの画像上に表示するシステム。

B型肝炎・C型肝炎の患者さんに朗報！

新薬がぞくぞくと登場

近年、肝疾患の診療は大きく進歩しているそうです。「ウイルス性肝炎」の領域では、強力な抗ウイルス薬が次々に登場し、B型肝炎ではウイルスを十分にコントロールすることが、C型肝炎では高率にウイルスを排除することが可能となっています。

また「自己免疫性肝炎」^{※1}では診断基準が整備され、標準的な治療法が確立されました。「代謝性肝疾患」^{※2}では、非アルコール性脂肪肝炎を含めた脂肪性肝疾患の概念が導入され、注目されています。「肝細胞がん」の診療ではガイドラインが整備され、その治療成績が大きく向上してきています。

肝移植についても臓器移植法が改定されてから脳死後の臓器提供が増加し、その尊い臓器提供によって移植を受けられた多くの方が、外来通院しながら自宅で療養されたり社会復帰されています。

肝臓の病気にもいろいろと種類がありますが、画像診断の飛躍的な進歩によって、さらに精度の高い診断が可能となってきています。

- ※1 自己免疫性肝炎：患者さん自身の免疫反応の異常により発症する慢性的な肝炎。
- ※2 代謝性肝疾患：肥満、高脂血症、糖尿病などを持つ方に見られ、一部は肝硬変に移行する。

新技術を確認しながら、患者さんをトータルに診療

現在、当院には常勤の病理医が不在の状態ですので、病理科で研修した経験のある松村医師が、病理専門医がつけた術後の最終診断所見を臨床に還元する役割も担っています。

最後に、松村医師は「消化器内科として、診断から治療、振り返り、その後のフォローまで、患者さん一人一人を責任をもって診療できるように力を注いでいます」と語ります。続けて「幸い私は、これまで最先端の肝臓医療の施設で研修した経験があり、上司のドクターにも恵まれました。今でも、難しいケースでは一人だけでは判断せず、何人かの尊敬するドクターからアドバイスをいただいています。困ったとき、遠くにいても相談できるドクターがいるのは、ほんとうにありがたいことだと思います」。

この研修体験こそ当院のオリジナリティを確保し、最先端医療の現場を支える仕組みのひとつ。消化器内科という進化の激しい医療現場でも、長野中央病院はつねに先頭集団を走り続けています。

News

長野中央病院で開催した行事やイベントをご紹介します。

2014
09

- 9月1日 HCU8床稼働
- 9月2・3日 リハビリ友の会一泊旅行
- 9月10日 震災時机上訓練
- 9月10～12日 ISO9001:2008更新審査
- 9月18日 たんぽぽの会 たんぽぽサロン(乳がん患者会)
- 9月23日 総合防災訓練
- 9月27日 BLS(一次救命処置)講習会

2014
10

- 10月4・5日 リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014信州長野に参加
- 10月8・15日 患者・利用者アンケート調査実施
- 10月9・10日 中学生職場体験
- 10月12日 病院祭
- 10月19日 肝臓病患者会
- 10月21・29日 全職員学習会「医療安全について」
- 10月24日 長野市救急隊×長野中央病院 合同救急症例検討会
- 10月28・29日 中学生職場体験
- 10月29日・11月19日 秋の高校生1日看護師体験
- 10月30日 竹の子の会 秋の懇親会(人工肛門患者会)



リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014信州長野

2014
11

- 11月8日 たんぽぽの会 秋の交流会
- 11月14日 糖尿病デー ライトアップ
- 11月14・15日 循環器ライブデモンストレーション
- 11月16日 りんどう会 日帰り研修旅行(糖尿病患者会)
- 11月26日 全職員学習会「虐待・個人情報保護について」
- 11月30日 ICLS(蘇生トレーニング)講習会

2014
12

- 12月3日 リハビリ友の会 望年会
- 12月7日 外国人健診
- 12月16～18日 日本医療機能評価機構 病院機能評価受診



外国人健診

Pick Up!

9月10～12日 / 12月16～18日

当院では、地域に根差し、安心・安全で信頼と納得が得られる医療の提供を目指して日々病院の改善に取り組んでいます。今年度、当院は「日本適合性認定協会」のISO9001と、「日本医療機能評価機構」の病院機能評価という2つの代表的な外部団体から医療の質に関する更新審査を受けました。審査の特徴と目的について紹介します。

1. 日本適合性認定協会「ISO9001:2008」

ISO9001:2008は国際標準化機構が定めた世界共通の規格で、長野医療生協全体として医療や介護サービスの質が維持され、継続的に向上するための仕組みづくりができていくかについて、外部の監査員によって評価されるものです。



2004年の総代会にて医療、介護サービスの質の向上を目的に第三者機関による認証取得を掲げ、病院機能評価とISO品質マネジメントを受けることになり、今年度は3回目の更新審査になりました。

2. 日本医療機能評価機構「病院機能評価」

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動(機能)が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。調査員が中立・公平な立場に立って、組織全体の運営管理および提供される医療について評価を行い、病院の位置付けや問題点を明らかにします。審査の結果、一定の水準を満たしていると認められた病院が「認定病院」となり、全国では病院の約3割が認定されています。



当院は2004年に初めて受審し、今年度で3回目の更新審査になりました。

今後も当院では、患者さんの満足のいく質の高い医療・介護サービスを一貫して提供できることをめざしていきます。

9月23日 初の総合防災訓練を実施

沿岸部を除くと長野県は全国でも最も地震発生の確率が高い地域です。当院でも大規模災害を想定してマニュアルの整備など準備を進めてきましたが、今年度初めて休日を利用して管理部や職責者を中心に総合防災訓練を実施しました。震度6強の地震発生を想定し、病院機能の維持と迅速な傷病者対応に移行できるよう、地震発生直後から各職場がどのように行動するか、確認を行いました。訓練実施後は参加者による反省会を実施し、今回の訓練で感じたことや課題を整理し共有するとともに、更なる災害対応力の強化に向けた取り組みを進めていくことを確認しました。



10月4・5日 リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2014信州長野

10月4日(土)から5日(日)まで城山公園ふれあい広場で開催されました。日々休みなく闘っているがん患者(サバイバー)とご家族・支援者(ケアギバー)をたたえ、がん征圧のための全世界的なイベントです。長野中央病院も黄色のチームカラーを目印に《チーム:あなたとともに長野中央病院》として参加しました。患者さんと職員で、24時間歩き続け、リレーをつなげることができました。



11月14・15日 全国の叡智、長野中央病院に結集!

当院にて循環器ライブデモンストレーションが行われました。ライブデモとは?簡単に言うと治療を行っている心臓カテーテル室と、全国から集まった60名以上の医師およびスタッフがいる会場を映像と音声でつなぎ、共に治療戦略を考えながら治療を進めていくことです。患者さんには多くの叡智を結集したより良い治療を提供でき、医師のレベルも向上します。当院では今後も開催する予定であり、皆様により良い医療をご提供できればと思っています。 臨床工学科 山岸大祐



12月7日 外国人健診

北信外国人医療ネットワーク(HIHI)が主催する外国人健診が行われました。北信地域に居住し、様々な理由で受診が困難な外国人の方の病気の発見に努めることを目的としています。当院では地域医療を守る視点から、10年以上前から受け入れを行ってきました。今年は、フィリピンやブラジル、中国の方21名が受診しました。職員では看護師や臨床検査技師、診療放射線技師が健診に参加し、大勢のボランティアと和やかな雰囲気なかで行われました。



職場紹介

安全で質の高い医療を提供したい...

第9期工事で内視鏡センターは検査室と大腸前処置室を拡大し、ゆったりとしたスペースで前処置ができるようになりました。一般の検査に加え消化器疾患の治療も行っています。看護師・臨床工学技士の能力を高めて安全で質の高い医療を提供できるよう学習や実技練習をしています。次回もまた当院で検査を受けたいと思うようなセンターをめざします。

外来内視鏡センター 看護主任 丸山和恵



このコーナーでは日ごろ連携させていただいている医療機関を紹介します。

医療法人 宮沢医院



院長
宮沢 政彦 先生

当院は、先代が昭和22年に現地（吉田町）に開業して以来70年近くになりますが、私は昭和45年東京医科大学を卒業した後、同大学内科医局に入局し都立広尾病院・都立大塚病院で内科医長として15年間にわたり勤務、平成7年に長野に戻り父の後を継いでいます。標榜科は内科・小児科・リウマチ科で、現在「在宅療養支援診療所」の認可を受け24時間対応の訪問診療や訪問看護体制を整えているほか、禁煙外来や認知症診断治療などにも積極的に取り組んでいます。

また平成9年に当院に隣接して単独型デイケア（グリーンテラス）を開業、さらに平成17年に徳間にデイサービス（認知症対応型デイ）併設のショートステイ施設（グリーンバード）を増設し、看護師10名、診療放射線技師などをはじめ総勢80名近いスタッフで高齢者の在宅療養のサポートに力を注いでおります。

今後とも長野中央病院との病診連携を図り、地域医療の一翼を担っていきたくと考えておりますのでよろしくお願い致します。



医療法人 宮沢医院

- 診療科目/内科・小児科・リウマチ科
- 所在地/長野市吉田2-1-29
- TEL/026-241-5956
- 診療時間/【平日】AM 8:30~12:00、PM3:00~5:30（水曜日PM6:00まで）
【木・土】AM 8:30~12:00
- 休診日/日曜・祝日・木曜と土曜の午後

医療法人 啓成会 岡田内科



院長
岡田 啓治 先生

厳格な義父は、旧長野無線病院（現長野中央病院）の勤務を経て西鶴賀町で岡田内科を開業、その後、私が診療所を引き継いで今日に至っております。2代にわたり、かかりつけ医として日常診療、訪問診療や往診など地域医療の担い手の一員として努めております。現在の西鶴賀町は、高齢化が顕著で、高齢者の独居者や高齢夫婦の世帯が増えています。日常診療では、患者さんの立場に立ち、患者さんの言葉に耳を傾けて、何でも相談に乗り、地域で暮らす住民の方々が安心して暮らせるように心掛けております。かかりつけ医は専門・緊急時などで中核病院との連携が大切です。何時でも患者さんを診ていただける長野中央病院は心強い存在です。心から感謝申し上げます。

医療法人啓成会は岡田内科、西鶴賀町にサテライト型介護老人保健施設、北長池に介護老人保健施設コンフォート岡田、短期入所施設を運営しております。さらに関連の社会福祉法人ふじは地域密着型介護老人福祉施設（特養コンフォートにしつるが）、第一・第三・第四・第五地区を担当する地域包括支援センターを運営しており、平成26年10月、サービス付き高齢者向け住宅コンフォートたまちの運営を開始しました。いずれも、社会の要請である「安心して暮らせる地域・西鶴賀町づくり」のために必要な社会資源だと考えております。

今後も、みなさんが安全・安心な暮らしができるように地域医療の担い手の一員を努めたいと思います。



医療法人 啓成会 岡田内科

- 診療科目/内科・小児科
- 所在地/長野市西鶴賀町1528
- TEL/026-235-1788
- 診療時間/【平日】AM 9:00~12:30、PM3:00~5:30 【土】AM 9:00~12:30
- 休診日/日曜・祝日・土曜午後



長野医療生活協同組合

長野中央病院

〒380-0814 長野市西鶴賀町 1570
TEL.026-234-3211 FAX.026-234-1493
<http://www.nagano-chuo-hospital.jp/>

